

釧路南ロータリークラブ会報

第34回 例会報告 2014.3.14 通算1529回

・点 鐘 佐藤玄史会長

・ロータリーソング

「我等の生業」



ソングリーダー 明松 真粧美会員

それでもまだ“春の彼岸”が過ぎないと油断はできません。ロータリー暦でいきますと来月4月は次年度の準備がスタートします。今年度の会長、幹事は気をぬくことなく6月のゴールまで、来月4月19日(土)から帯広で地区協議会、5月東RCとの合同例会、花見例会、植樹例会の予定がありますので会員の協力おねがいたします。役所的に言いますと3月の年度末で仕事の方も何かと忙しいこととは思いますが先週の出席を見ますと多少の不安があります是非、出席をお願いいたします。

以上会長挨拶とします。

・結婚祝

奈良 清成会員 H8.3.16 (18年目)

・会長挨拶



こんにちは、寒さも少しやわらぎこの地方にも春の気配が感じられてきました。

・幹事報告



* 釧路北ローターアクトクラブより3月例会のご案内と2月例会報告並びに3月30日(日)13:30から釧路市文化会館で開催の2013年~14年度第3ブロック合同例会のご案内と5月11日(日)会場は未定ですが第4回 東日本復興支援チャリティーフリーマーケット物品提供のお願い文を拝

受しております、詳しくは判り次第報告させていただきます。

* 北川健二第7分区ガバナー補佐・小野寺英夫釧路北ロータリークラブ会長・中嶋嘉昭IM実行委員長連名で第7分区IM終了お礼文が届いております

* ハイライトよねやま168号が届いております。

* 釧路地方裁判所事務局総務課長 貴多 佳輝氏より「民事調停に関する出前講座及び裁判所見学のご案内が来ております。1時間程度との事ですが、裁判所には食堂も有り各委員会の例会予定に検討されてはと思います。

* 国際ロータリーより日本語版ロータリークラブ・セントラルクラブ用手引きをEメールよりコピーしました、次期・現会長、幹事並び役員・委員長が目標を立て、達成状況を確認するためのオンラインツールです。クラブ会員ならどなたでも、目標と達成状況を閲覧することが可能とのことです。以上、回覧板に載せております、ご覧下さい。

* ロータリーの友事務所より2014～2015年新年度版ロータリー手帳の注文が来ております。1部648円で、締め切りは3月19日です。尚、毎年の申し込みは各会員自身の自費となっております、希望者は締め切り前に幹事まで。

・委員会報告

親睦委員会

・本日のニコニコ献金

奈良 清成会員 結婚祝として

・本日のプログラム

「ゴミ・環境問題を考える」

担当 環境新世代委員会 亀岡 孝委員長

* 本日亀岡会員が出張の為、福井会員代読



目次

1. 釧路市ごみの出し方のおさらい
2. 自然の番人宣言
3. 至急温暖化防止計画
4. 日本を襲う環境問題
 - 4-1 日本に向かう偏西風
 - 4-2 PM2.5問題
 - 4-3 海洋汚染問題
 - 4-4 原発問題

1 釧路市ゴミの出し方のおさらい

釧路市では、家庭ごみは可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、有害ごみの5つに分けて収集する組織を行っています。可燃ごみと不燃ごみを排出する時は、釧路市指定の可燃ごみ専用袋、不燃ごみ専用袋を使います。市内のコンビニエンスストア、スーパー等で、1組10枚単位で販売しています。ごみの収集日は住んでいる地域によって異なりますので「くしろクリーンカレンダー」で確認してください。「ごみの分別早見表」はごみの種類に応じた分別区分を五

十音別に掲載しておりますので参考にしてください。男性の方ももっと関心を持ち奥様に協力してください。

2 自然の番人宣言

釧路市ではごみの不法投棄や豊かな自然を守る為、平成 18 年 4 月 1 日に近隣 7 市町村と「自然の番人宣言」を宣言しました。今の自然環境は、この地に住む人々が代々大切に育ててきたものであり、次世代に伝えなければならない責務が私たちに有と考え、最大限の努力を行ってまいりました。しかしながら、近年、多くの方々の努力を踏みにじる廃棄物の不法投棄や、ポイ捨てなどの行為が後を絶たず、明るい未来に影を落としております。ここに、圏域に住む私たちは自然の番人として立ち上がり、廃棄物の不法投棄や、ポイ捨てなどから自然環境を守り、引き継ぐことを目的に宣言するものです。又、「自然の番人宣言」運動の趣旨に賛同していただいた釧路管内の企業、団体などに認定証を渡し、不法投棄、ポイ捨てなどの監視や地域清掃などの活動をしています。当社も 5 年前から活動に参加し地域のまちづくり貢献事業に努力しているところです。

3 地球温暖化防止計画

地球温暖化問題は、日常生活や事業活動に伴って発生する温室効果ガスが大気中の温室効果ガス濃度を増加させることにより、地球全体の地表及び大気の温度を追加的に上昇させ、気候変動を通して、生態系や人類に深刻な影響を及ぼすことが懸念されており、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問

題の 1 つとされています。

国内では、地球温暖化対策の推進に関する法律が施行され、国、地方公共団体、事業者及び国民の責務が定められました。

釧路市においても、平成 16 年 3 月に実行計画を策定し、温室効果ガス排出量ノ削減に取り組んでいます。また、環境負荷の低減を目的として、環境マネジメントシステムの運用にも取り組んできました。平成 22 年 9 月に釧路市モ特定事業者指定され、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

釧路市におけるこれらの取組みは、対象施設や取組み項目に一部違いがあるものの、概ね一致していることから、実行計画に環境マネジメントシステムの要素を取り入れて策定しています。

策定計画は、地球温暖化対策の推進を図るため、釧路市の事務及び事業により排出する温室効果ガスの削減に向けた取組みを計画的に実行することを目的としています。

4 日本を襲う環境問題

4-1 日本に向かう偏西風

偏西風とは、極を中心にして北緯約 20~60 度の範囲の上空を西から東に向かって帯状に吹く風で北半球では冬に最も強く風速の極大を示すジェット気流は秒速 100m を越します。夏は、北緯 50 度付近で弱く吹きます。地球の偏西風の流れの型は 3 つあります。

(1) 東西流型

大規模な寒気の南下は無く、天気は周期的に変わる。

(2) 南北流型

南下するところでは寒波や低温が、北上するところでは熱波や干ばつが起りやすい。

(3) ブロッキング型

偏西風が北と南に枝分かれ、北に暖かいブロッキング高気圧、南に冷たい低気圧を作ります。偏西風帯の気圧の谷の東進を阻止するブロッキング現象は、しばしば1週間以上も続き、異常気象を近年日本にももたらしています。

4-2 偏西風で日本に到来するPM2.5問題

中国では大気汚染が深刻の度を増しています。主因の微小粒子状物質（PM2.5）は海を越えて日本にも大量に飛散していると考えられています。

PM2.5の発生を抑える対策は待ったなしです。PM2.5は、直径2.5マイクロメートル(1マイクロメートルは1000分の1ミリ)以下の物質の総称です。スギ花粉の10分の1ほどの粒子で、吸い込むと肺の奥まで入りやすく喘息や気管支炎などの原因になるとも指摘されています。

北京市では2月26日、PM2.5の大気中濃度が、1立方メートルあたり500マイクログラムを超えました。日本国内で自治体が住民に注意喚起をする濃度は70マイクログラムで中国の汚染の深刻さが分かります。

PM2.5急増の原因は、石炭を燃やす際に生じる煤煙や自動車の排ガスで、習近平国家主席は先月、濃霧の北京市内を視察し、工場での石炭使用の抑制や自動車の使用規制などを指示しました。

中国政府はこれまでも、大気汚染対策の実施を表明してきましたが、大きな改善は見られなく、多くの

生産現場が、環境問題よりも目先の利益を優先し、規制を無視してきたということだろうと思います。

日本や韓国が中国からのPM2.5の影響をもちに受けるのは、偏西風が強まるこれからの時期です。北京の汚染濃度が500マイクログラムを記録した同じ日、西日本と北陸などで濃度が上昇し、10府県が住民に注意を促しました。

呼吸器や心臓に病気がある人や高齢者、子供の体調管理には、十分に留意せねばならないと思います。

4-3 親潮・対馬海流で日本に到達する海洋汚染問題

水質を6種に分類し、うち比較的良質とされる上位3分類に属する比率で見た中国7大河川（長江・黄河・珠江・松花江・海河・遼河・淮河）の水質は、2002年度で29%まで悪化してきたものの、翌2003年度には38%へと改善しているが、しかし、個別にみても流量が減少している海河、遼河、黄河、淮河では有機物や重金属類などの汚染が深刻になっています。さらに、大きな湖沼での窒素・リン系汚染も進んでいます。渤海の汚染状況は1年に流入する汚水と排水28億トン、1年に流入する汚染物質70万トン、西海（黄海）の向こうに広がる渤海が死んだ海と化しています。渤海は遼東半島と山東半島に囲まれた中国唯一の内海で、一時は「魚の宝庫」、「海洋公園」とも呼ばれていました。しかし、天津を中心とする渤海湾地域の経済が急速に発展したことで、渤海は魚さえ住めない巨大な汚染地と化しています。

以前はクルマエビ、ハマグリ、ヒラメ、イシモチ、

スズキ、イカなどが多く獲れていたものの、今ではこれらの魚種も一切姿を消してしまいました。魚の宝庫として有名だった渤海湾海域が、今では魚1匹見られない死の海と化してしまっただけです。渤海汚染の3大原因は生活用水、工業排水、農薬・化学肥料です。天津市海洋局が最近渤海に流れ込む15の汚水を調査した結果、15すべてが汚染基準を超えています。遼寧、河北、山東省を含む計105の汚染区を通じて毎年28億トンの汚水と約70万トンの汚染物質が渤海に流れ込んでいるのですが国の政策及び処理技術が追いつかず拡大の一途をたどっているのです。今日も黒潮と対馬海流などに乗って韓国や日本にも到着しています。

4-4 福島原発よりも被害を大きくする原発問題
危険を及ぼす可能性があるのは、中国の原子力発電所です。中国が建設計画中の原発は200基近くなりますが、問題は、環境意識が不足していることと、原発運営に関する経験が少なく、問題を起こす確率が高いということです。もし、事故が起きれば、大気中の放射性物質は偏西風に乗って、韓国・日本に直接的な影響を与えるだけでなく、海にも排出され、深刻な問題を引き起こすこととなります。また、危険度の高い旧式の原子炉を利用する原子力発電所の建設も計画しているという大変な状況でもあります。日本の福島原発事故で放射性物質の恐怖が広まっている状況で、中国は火山噴火の可能性のある白頭山付近に原発の建設計画を出したことで、国民の不安はさらに大きなものになるとみられているのです。特に中国は、原子力発電所運営の経験が短

く、情報交換もまともに行われていない状況です。専門家は、中国で日本の福島原発のような事故が起きれば、韓国半島が直接影響圏に入ると見えています。国立気象研究所の黄砂研究科研究官は「現在の原子力発電所が建設されている遼東半島の大連、山東省の煙台と青島などの地域は、黄砂が韓国に渡ってくる道とし、「秒速10メートルの偏西風により、24時間以内で韓国半島に到着する」と述べています。中国は、福島原発事故以来、新規の原発設立をいったん中断しました。でも人民日報によると、中国当局は、原発建設を再推進することを明らかにし、現在運転中の13基に、建設中の27基、追加建設を検討している188基を合せば、中国の原子力発電所は、228基となります。こうなると中国南部の浙江の東海岸に沿って山東省を経て、北朝鮮の近くにある遼寧省、吉林、黒龍江までが巨大な帯をなすのです。近年日本の原発問題も大事ですが異常に危険な隣国の環境問題にも目を向けるべきではないでしょうか。

※以上、「ゴミ・環境問題を考える」の報告とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。



・次回のプログラム

3月21日（金）休会

3月28日（金）

「家庭集会報告」

会場 釧路東急イン 12:30～

担当：クラブ管理委員会

・点 鐘 佐藤玄史会長

今週の会報担当：上川原昭会員